

# 知覚のメタファー

## — 動詞終止法の用例 —

蓮沼啓介

### 1. 問題の所在

- (1) (今日の前で) 神戸に船が着く。
- (2) (明日の午後) 神戸に船が着く。

なぜ、目の前の出来事と明日の予定が同じ文で言い表せるのか。知覚のメタファーが使われているからである。(1)は知覚の表明である。(2)は知覚のメタファーである。

知覚のメタファーとは何のことか。知覚に似たことを知覚として扱うことである。知覚とは何か。知覚とは感覚の確認と再現である。感覚の確認とは感覚をそれと確かめることである。感覚の再現とは感覚が消えた後に、感覚の対象の出現なしに、消えた感覚の像を再び現すことである。

### 2. 感覚とは何か

感覚とは五つの感覚器官が外界の刺激を受けて生み出す印象のことである。目・耳・鼻・舌・肌が五つの感覚の器官である。視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚がそれぞれの器官が生み出す五つの感覚である。

(幻覚については不明のことが多い。)

感覚の実例を示す。目の前に見える船の色や形や海と空の青さは視覚の実例である。到着を知らせる汽笛の音は聴覚の実例である。潮の匂いは嗅覚の実例である。潮がしょっぱいのは味覚の実例である。潮風が涼しいのは触覚の実例である。

(ピンと来たりハッと閃くのは第六感である。)

知覚に似た作用にはどのようなものがあるか。

(2)は知覚に似た心の活らきを知覚の如くに描写する文である。予定の表明は普通メモを見たり、時刻表を思い出してそれと確認したり、予定表を見ている人に訊ねて教えて貰ったりして行う心の活らきである。どれも見るという動作やその再現を含む複雑な精神の作用であり思考の操作である。

### 3. メタファーとは何か

メタファーとは似たもので置き換えることである。普通は複雑なもの・ことを簡単なもの・ことに置き換える。知覚は簡単明瞭であるが、精神や思考の作用は複雑であり良く分からないところが多い。

メタファーの実例を示す例文を挙げる。

- (3) あの人には器が大きい。

容れ物のメタファーの実例である。才能や度量を容れ物を満たす液体に喩えた表現である。

- (4) ?逸ノ城は器が大きい。

文字通り太っているとか大柄であるという意味には使わない。メタファーは描写や写実ではない。メタファーには効用がある。メタファーをなぜ用いるのか。認識とその表明が簡単になるからである。

なぜ簡単な方がいいのか。その方が楽だからである。楽とはどういうことか。脳や心に心地良いということである。なぜ心地よいのか。

認知エネルギー節約の法則に合うからだよ。

#### 4. 認知エネルギー節約の法則

人間の本性に基づく法則である。

脳内の神経細胞のレベルで作用する法則である。

神経細胞へのエネルギーの供給をコントロールする法則である。

無駄の少ないパターンが選好される。簡単なパターンによる置き換えが好んで行われる。

エネルギー節約の法則は人心の法則である。エネルギー効率の良い個体が生き残る。

認知エネルギー節約の法則は人心の法則の具体例である。

人心の法則は未開拓の沃野である。睡眠はなぜ必要か。神経細胞のメンテナンスに必要不可欠である。また貯蔵細胞へのエネルギーの補給に必要と推計される。

生き延びるためには節約が必要だよ。

#### 5. 人心の(錯)乱

認知エネルギー節約の法則に違反する事態を例示する。

a.悪循環と無限後退

循環小数 0.333・・・ 割り切れない思いが残る。

b.同一性の不安。現れたり消えたりする物事。

c.スケールの不安定。巨大すぎる。微細すぎる。

認識の回避が発生する。無駄を避けるために認識の作動を一時停止する。・・・は三点くらいでもういい。

適者生存が人心の法則を生み出す。いわば燃費の良い個体が生き残った。

生物としてヒトの強みは知能の高さにある。飛べないけもの、足ののろいけもの、はだか一貫のけものである。ほかに取り柄がない。知能の活用が生存への鍵となる。人心の活らきを常に高く保つにはエネルギーを効果的に使う必要がある。エネルギー効率のよい脳を持つ個体が生き残った。

法則の応用。公理の選択は節約の法則による。ユークリッド幾何学が選ばれるのはなぜか。平行線が交わらない方が分かりやすい。これは実生活における選択である。論理の選択も節約の法則による。実在の探求には言葉の論理が採用される。計算機械の設計には数学の論理が採用される。この場合には中間項排除が鉄則とされる。

#### 6. メタファーのレベル

(5) 氷は冷たい。

(6) あんたは冷たい。

(6) は語彙レベルのメタファーである。これに対して (2) は語法レベルのメタファーである。

メタファーには種類がある。

(7) 月はお盆／のようだ／みたいだ。

(8) 月はお盆だ。

(7) は普通のメタファーである。(8) は隠喩である。月がお盆ではないことは自明である。それを承知の上で(8)をいえば、屈折が生じる。ポール・グライスのいう **waiver** 迂回が発生する。迂回による屈折から喩えであることが推定される。隠喩の使用は認知エネルギーの節約にはあまり役立たない。別の目的を果たす表現である。ただしグライスのマキシムもまた認知エネルギー節約の法則の補助的な事例である。推理の量を最小に押さえるという原則によって始めて成り立つものであるからである。関連性理論もミニマリズムもその応用である。

## 7. 動詞終止法の用例

### a. 眼前描写（発見文・遂行文・法律条文・本心表明文）

- (9) ワー、人形が動く。(発見文)
- (10) 何とか頼む。(遂行文)
- (11) 学問の自由はこれを保障する。(法律条文・憲法23条)
- (12) 素敵、しびれる。(本心表明文)
- (13) この発表は疲れる。(同)
- (14) そんな事言われても困る。(同)

### b. 再現描写（体験記述・受理・反復描写・予定の確認）

- (15) 足を踏まれる。(体験記述)
- (16) 角道をあける。なるほどね。(心中での受理)
- (17) この船は明日神戸に着く。(予定の確認)
- (18) 愛は地球を救う。(反復描写)
- (19) はるかクナシリに白夜は明ける。(詠嘆描写)

### c. 心中描写（ト書き・マニュアル・シナリオ・スケジュール）

- (20) 忠治が中央に歩み出る。(ト書き)
- (21) サンマを焼き、大根をおろす。(マニュアル)
- (22) 寅さん下を向いてハハハと笑う。(シナリオ)
- (23) 次の発表は11時30分に始まる。(スケジュール)

### d. 一括描写（あらすじ・新聞の見出し・映画やドラマの題や見出し）

- (24) 妹の文は小田村と再婚する。(あらすじ)
- (25) 花燃ゆ。(映画やドラマの題)
- (26) 自民党300議席を越える。(新聞の見出し)

### e. 一括再現描写（真理・習慣・習性・傾向）

- (27) アルコールは水に溶ける。(真理)
- (28) あいつは五時に起きる。(習慣)
- (29) カラスは森に棲む。(習性)
- (30) 溺れる者は藁をもつかむ。(傾向)

## 8. 実行言語と体験のメタファー

日本語の如き実行言語では体験のメタファーが良く使われる。

知覚のメタファーはその一種である。行為のメタファーもその一種である。

擬人化は行為のメタファーの使用例である。出来のスキーマは体験のメタファーから派生する。出来のスキーマは別の言い方をすれば常態のメタファーから派生する。眠くなる。お腹が空く。熱が出る。こうした体調の自然な変化を仮に常態と名付ける。常態のメタファーは常態である事態の自然な成り行きを比喻に用いるメタファーである。事態を全身の体験に喩えると出来事になる。その図式が出来のスキーマである。

出来のスキーマとは何か。「場におけるコトの生起」。日本語で好まれる言い回しである。嬉しい。たとえば(私は)嬉しい。の意味になる、私という「場所」において感情というコトが生起する。私とは話し手の味わう全身体験のことである。受け身や可能の表現は全身体験をメタファーとして用いる表現である。私は皮膚の表面によって周囲の環境から区別される。空間は無限に広がっている。場所はある範囲に収まる。これは全身体験をメタファーに用いるために自分と周囲の境がくっきり区分されるからである。出来文。場所において一まとまりの事態が生成する。これが出来のスキーマである。行為の意図とその実現として事態を描く事が普通であるが、意図なしに行為が実現したり、逆に意図したのに行為が非実現に終わったような場合を描くには、出来のスキーマは便利である。自発「たまたま神輿が見られた」「鐘の音が聞こえた」と失敗「戸が開けられない」「薬が飲めない」はその典型である。

## 9. 語法レベルのメタファー

動詞終止形の用法については既に述べた。

準体のノの用法。命題の提出を知覚に喩える語法である。あなたにも直ぐ分かるでしょう?と問いかける語形である。新知識の提示は知覚のように新鮮である。

判定詞ダの用法。熟慮という思考作用を知覚に喩える語法である。

要するに、知覚のメタファーは未開拓の新分野である。

## 参考文献

尾上圭介(2001)『文法と意味Ⅰ』くろしお出版。

尾上圭介(2012)「文法に見られる日本語らしさ —— <場におけるコトの生起>と<自己のゼロ化> ——」国語と国文学、平成24年11月特集号。

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版。